

1.計画名称

茅野市住生活基本計画

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	各施策とも、中間目標値に届かないものの、順調に数値を上げてきている。なお、快適な居住環境の形成の目標指標である「住宅団地販売残数」については、現時点で2027年度目標値をほぼ達成した。
今後の重点化施策番号	3	説明	増加を続ける空き家に対して、空き家住宅改修件数や流通件数の指標は目標を達成した年が少ない。社会現象化している空き家対策について、空家バンクの開設など取り組みを加速している現状から、重点的に推進していく。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	安心してやさしい住まいづくり	おおむね順調	(R5評価)耐震診断、改修の補助制度を設け、広報ちのやドレ-展等、アクションプログラムに沿って事業を推進した。 (総括評価)6年間で耐震診断125件、耐震改修34件の実績となり、耐震化率向上に努めることができた。	(R5・総括評価共通) 【耐震】 ・耐震改修や危険ブロック塀に対する事前対策の重要性を認識していただくよう、効果的な周知・啓発に取り組む必要がある。	【耐震】 ・耐震診断を行ったままの市民に対し、電話連絡により耐震改修の重要性や助成制度について説明を行い耐震化を促す。
2	良質な居住環境を維持できる住まいづくり	順調	(R5評価) ・未販売であった旭ヶ丘団地2区画のうち1区画を販売。 ・リフォーム補助交付件数111件。 (総括評価) ・住宅団地販売はコロナ禍の地方回帰の流れを取込み、ほぼ完売となった。リフォーム補助金は住宅リフォームに対する一定の支援となった。	(R5・総括評価共通) ・R6評価時点で旭ヶ丘団地も完売した。 ・GHV自治会との今後の維持管理負担金の方向性について協議が必要。 ・リフォーム補助制度は支援にはなっていたが、促進という意味では効果は薄かった。	・GHV自治会との協議について、庁内合意をとったうえで進めて行く。 ・リフォーム補助を廃止し、空き家対策補助金へと移行したので、そちらの利用を促進することで、空き家対策を進めて行く。
3	ライフスタイルに対応できる住まいづくり	おおむね順調	(R5評価) ・空き家調査結果をもとに空き家所有者への意向調査を実施することで、相談会への誘導や利活用の意向を確認できた。 (総括評価) ・特定空家への認定とそれらの除却に向けて取り組むことができた。 ・空き家相談会を軌道にのせ、毎月継続することができた。	(R5・総括評価共通) ・特定空家や管理不全空家等への対応の仕組み作り。 ・空き家マッチングの仕組みの構築。	・特定空家及び管理不全空家対応のマニュアルの精査及び実施。 ・空き家バンク及び空き家マッチングの実施に向けた仕組みの構築・確定。 ・空き家対策促進事業補助金を活用した空き家対策。
4	安定した暮らしを確保できる住まいづくり	おおむね順調	(R5評価) ・住宅確保要配慮者への対応について、県と協力して庁内担当者との居住支援勉強会を開催した。 (総括評価) 市営住宅入居者への対応について、福祉部局との連携は比較的うまくいっている。また、居住支援勉強会を開催し、担当者間の顔合わせを実施できた。	(R5・総括評価共通) ・新たな住宅セーフティネット制度による民間ストックの活用検討。 ・居住支援に係る部局間や民間を含めた連携の在り方。 ・既存施設の計画的な改修。 ・経年による老朽化した施設の在り方について。	・庁内支援会議や福祉、社協と情報を共有する中で、対応方針を決めており、引き続き連携しながら進めていく。 ・居住支援に係る連携について、まずは勉強会を継続していく。 ・県との共同運営事業について、県と連携して実施していく。
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		